

防ごう！こどもの事故

運動能力が発達し、動きがより機敏になりますが、注意力は未熟です。不慮の事故にあいやすくなるので、大人の安全対策が必要です。



我が家の安全度をチェックしよう

あてはまる項目に印をつけましょう。印がつかない項目についてはすぐに改善しましょう。

- こどもの遊び場やおもちゃの安全について注意している。
- 常に子どものいる位置を確認している。
- すべり台やブランコ、鉄棒などの遊具の正しい遊び方を教えている。
- 縄跳びや肩掛けバッグ（通園バッグ）を掛けたまま遊ばないように注意している。
- ベランダや窓のそばに踏み台になるものを置いていない。
- 薬や化粧品、洗剤などは、子どもの手の届かないところに置いている。
- ライターやマッチなどは子どもの手の届かないところに置いている。
- 浴室や床のタイルは滑りにくい。浴槽の水はぬくか、浴室に鍵がかかるようになっている。
- 子どもだけで川や池に遊びに行くことはない。
- 水遊びをするときは、必ず大人が付き添っている。
- あめやおもちなどをあげるとき、のどに詰まらせないように注意している。
- 子どもに交通ルールを教えている。
- 道路を歩くとき、子どもと手をつないでいる。
- 三輪車や補助つき自転車の安全な乗り方を教えている。
- 自動車に乗せるときはチャイルドシートを必ず使用している。



役立つこどもの救急手当

● 出血したとき

出血	ガーゼや清潔な布で傷口を強く押さえ（圧迫）止血する
出血がひどい	圧迫して止血する。止まらなければ救急車を呼ぶ
ガラスや釘が刺さった	深く刺さった場合は無理に抜かないで病院（外科）へ
トゲが刺さった	毛抜きや消毒した針で抜き取る
すり傷・切り傷	泥や砂は流水で洗い流し、圧迫して止血する
鼻血	子どもの頭を少し前に傾けて、抱っこするかすわらせ、鼻をつまむように押さえる。または綿球などを鼻に詰めるとよい。血がのどに流れて吐くことがあるのでおむけにしない。

● 頭を打ったとき

すぐに泣くようなら様子を見る。
ぐったりしたり、顔色が悪い時はすぐに受診する。

● 目に異物が入ったとき

こすらないようにして流水で洗い流す。
取りにくいときは水で濡らした綿棒を使う。異物が刺さっている時は、ガーゼなどで両目を多い、眼科へ行く。

● おぼれたとき

発見が早く大声で泣くようであれば、反応も呼吸もあるので温かくして様子を見る。耳元で名前を呼び、反応がなければ、周囲の人に助けを求め、119番通報、AEDの手配をする。呼吸がない・普段と違う呼吸・わからない場合は、ただちに胸骨圧迫を実施する。

気道確保：ひたいを押さえながら、あごを持ち上げ、顔をのけぞるような姿勢にする。

胸骨圧迫：胸の真ん中を両手または片手の手のひらで押す。
○強さ：胸の厚みの約3分の1が沈む強さ
○速さ：1分間に100～120回

人工呼吸の技術と意志があれば…

胸骨圧迫30回と人工呼吸2回の組み合わせ

・気道確保を行い、子どもの鼻をつまんで口に息を吹きこむ。約1秒かけて胸が上がるの見えるまで吹き込む。
(息の吹き込みは10秒以内に2回)

昔使っていたスマホでオンラインゲームのアイテム購入

事例

クレジットカードの利用明細に、覚えのない8万円の請求があった。

調べてみると、以前使用していたスマートフォンを使って、娘がオンラインゲームで遊び、ゲーム内のアイテムを購入していたことがわかった。

自宅のWi-Fi経由でインターネット回線につながり、登録してあったクレジットカード番号だけで決済できたようだ。(6歳女兒)



- スマートフォン（以下スマホ）は、通信契約解除後も、自宅や飲食店のWi-Fi（無線LAN）環境などを経由してインターネットにつながることがあります。使っていないスマホでも、インターネットにつながると簡単にクレジットカード決済できることがあります。子どもが予測できないパスワードを設定するなど、対策を講じましょう。
- 子どもによるオンラインゲームのトラブルは低年齢化しています。子供は親の想像以上に簡単にスマホを操作できるものです。親子で使い方のルールを話し合しましょう。

ドラム式洗濯機に子どもが閉じ込められて死亡



事例

ドラム式洗濯機に7歳の男児が閉じ込められて死亡する事故が起きました。

横向きにふたがついているドラム式洗濯機は、洗濯物の出し入れに便利な一方、子どもが自力でも簡単に中に入ることができます。

子どもは好奇心が旺盛で思わぬことをするので注意が必要です。

- ドラム式洗濯機には、ふたが閉まると中から開けることができない機種がかなりあります。
- 子どもが洗濯槽に入ることが出来ないように、使っていないときも必ずふたを閉め、ふたが開かないようにするチャイルドロック機能がない洗濯機では、ふたにゴムバンドをつけるなど、簡単に開かない工夫も有効です。
- 親の注意を理解できる年齢の子どもには、ドラム式洗濯機の中に入れば息ができなくなることなどの危険性をよく説明しましょう。